

情報通信審議会 情報通信技術分科会
電波利用環境委員会 CISPR A 作業班(第 20 回)

議事要旨

1 日時：令和 5 年 12 月 12 日（火）13:00～15:00

2 場所：Web 会議開催(Cisco Webex)

3 出席者（敬称略）

【構成員】石上主任(東北学院大学)、田島主任代理(NTT-AT)、雨宮構成員(VCCI)、安藤構成員(JEMA)、伊藤構成員(NHK)、チャカロタイ構成員(NICT)、登坂構成員(JET)、中嶋構成員(JQA)、鳩野構成員(JEITA)、原田構成員(VCCI)、針谷構成員(KEC)、藤井構成員(NICT)、三塚構成員(TELEC)

【関係者】長部関係者(VCCI)、島先関係者(VCCI)

【事務局】総務省：今泉電波監視官、郷藤電磁障害係長、木村官

4 議事概要

(1) CISPR A ロンドン会議等 審議結果について

CISPR A 総会の審議結果について、石上主任より資料 20-1-1 に基づき説明が行われた。

次に、WG1 の審議結果について、石上主任より資料 20-1-2 に基づき説明が行われた。補足・質疑応答は次のとおり。

長部関係者：項目 6.3 の CISPR 16-1-4 の修正について、CDV が 10 月末に発行予定と記載されているが、現時点では進捗が遅れており、A 小委員会の事務局からは CIS/A/1416/CDV として来年 1 月 12 日に発行予定と伺っている。

藤井構成員：項目 6.4 のカリキュラブルループアンテナの検討については中国 NC のエキスパートより個別に相談を受けている。当方からも助言を出しているが、実験データが不足しており、10 月末に提出予定の CD 案が提出されていないことから状況は難航しているのではないかと思う。

項目 7.3 のバイコニカルアンテナの補正係数については、現在、中国 NC のエキスパートと計算結果の比較をするなどして検討を行っているが、計算結果が合わず調整中となっている。サイトアッテネーションについての専門知識を持つ複数名のエキスパートと調整しているが、もう少し時間を要するかと思う。

田島主任代理：項目 6.4 のカリキュラブルループアンテナの検討について、内容の重要性・インパクトの程度について知りたい。

藤井構成員 : 個人的にはカリキュラブルダイポールアンテナは重要かと思うが、カリキュラブルループアンテナについては必ずしも必要ではないかと思う。ただ、中国 NC の主張としては、カリキュラブルループアンテナがあることによりコモンモードの影響等が分かるため規格化が必要だということだった。

次に、WG2 の審議結果について、田島主任代理より資料 20-1-3 に基づき説明が行われた。

次に、AHG7 の審議結果について、石上主任より資料 20-1-4 に基づき説明が行われた。

次に、AHG8 の審議結果について、島先関係者より資料 20-1-5 に基づき説明が行われた。

次に、A/I JTF の審議結果について、島先関係者より資料 20-1-6 に基づき説明が行われた。質疑応答は次のとおり。

田島主任代理 : 項目 6 に関連して、CISPR 32 第 3 版の CD 案についてのスケジュールが確認したい。

島先関係者 : CD 案の検討そのものは相当進んでいる。ただし、11 月に開催されたプレナリ会議で CISPR 32 の規格化についてはステージ 0 に戻ることが決定したため、2024 年に発行される CD を待つことになる。

田島主任代理 : AHG7 及び AHG8 について、Gorini 議長が次回会合についてはいくつかの会議を集めて開催する旨の発言をしていたかと思うが、この JTF はその会合に含まれるか。

島先関係者 : JAHG6 及び JTF についても AHG7、AHG8 と併せて開催したいと発言されていたが、最終的な決定については確認してみないと分からない。長部関係者が Gorini 議長に伺った際には JAHG6 が日本主導のアドホックグループであるため一緒に開催されてはどうかと発言されていた。個人的には 3 つの会議の同時開催が限界だと思うが、4 つの会議を同時開催する可能性も考えられる。

次に、A/I JAHG6 の審議結果について、長部関係者より資料 20-1-7 に基づき説明が行われた。

次に、JWG9 の審議結果について、田島主任代理より資料 20-1-8 に基づき説明が行われた。

(2) 電波利用環境委員会 報告書(案)について

石上主任より資料 20-2-1 及び 20-2-2 に基づき説明が行われ、承認された。

(3) その他
特になし。

以上